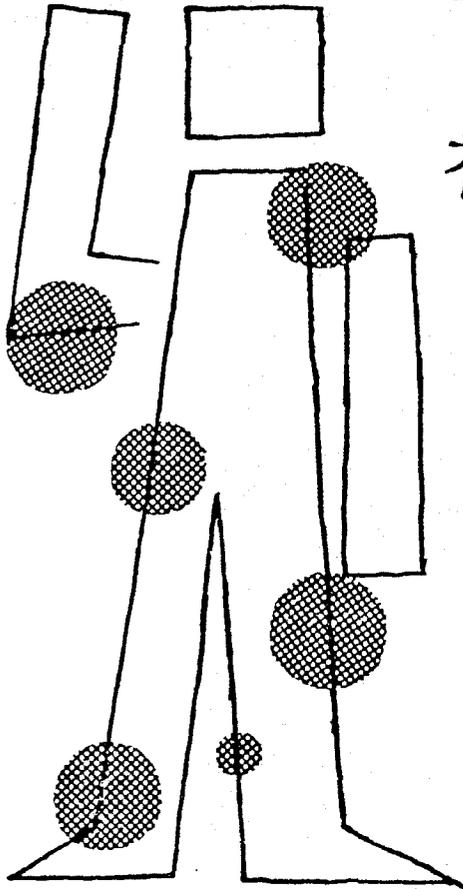


# 聖徒の道



9月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



ウロコ印



武田薬品

# 神経痛・リウマチに

アリナミンは、今までのビタミンB<sub>1</sub>では望めなかった優れた特長があるので、各種B<sub>1</sub>適応疾患によく奏効します。

特長 … ①組織との親和性が強く、臓器や血液(特に血球)中に高濃度に移行し、長時間作用します。

②コ・カルボキシラーゼ(結合型B<sub>1</sub>)になりやすい。

③内服でも殆ど全部吸収され、腸内のアノイリナーゼ(B<sub>1</sub>分解酵素)で破壊されません

★新型ビタミンB<sub>1</sub>剤

## アリナミン

ほかに…

手術後の神経障害・疲労・便秘・ストマイ難聴

糖衣錠 30錠・100錠・300錠 注射液 10管・50管

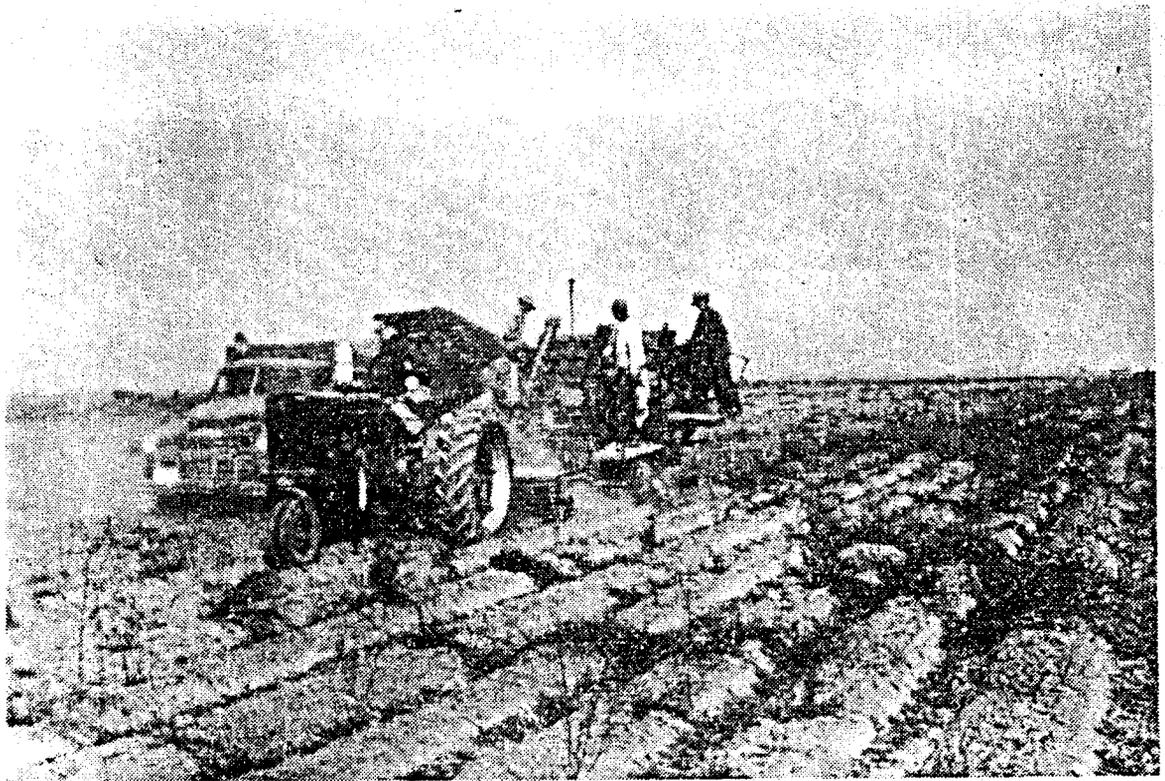
大阪市東区道修町

武田薬品工業株式会社(テ42)



日本ナショナル金銭登録機株式会社

本社・東京銀座6-2 TEL (57) 4801-9



アイダホ州カシャー・ステーキ部福祉農場 (ジョン・アダムス長老提供)

## 聖 徒 の 道

目 次 一九五九年九月号

【予言者のことば】	
八十五才の誕生に際して思う……	
大管長 デビッド・O・マッケイ……	2
【伝道部長メッセージ】	
科学と宗教……	ポール・C・
	アンドラス……
5	
【福千年】……(モルモンの教義)	佐藤竜猪……
8	
【極東に於けるモルモン】	
私の 改宗……	周藤珠彦……
11	
今月の出来事	
日本の地の献納(九月一日)……	14
ウィルフォード・ウッドラフの死(九月二日)……	15
モロナイの訪れ(九月二十一日)……	16
西部実業界の雄……	17
一粒の麦……	佐伯忠晴……
20	
【支部紹介】	
むろらん支部……	22
モルモン経八人の見証者……	24
モルモン経物語(二三)……	25
【読者交歓室】	
人生の目的……	吉沢興子……
30	
阿倍野支部を訪ねて……	早川嘉春……
30	
よき隣人……	31
伝道本部だより……	29
【俳句】西支部句会……	23
地方部大会のお知らせ……	21
永遠の家族組織……	19
	ジョセフ・F・スミス……



予画者のこと

## 八十五才の誕生に際して思う（一九五八年）

大管長 デビド・O・マッケイ

数日前に、一人の友人が私に意味ありげにたずねた「あなたは自分の誕生日が生涯の中で最も大切な日であったことに気がついていませんか。もちろん、その日がなかったらあなたはこの世にいませんでしたでしょう」と。

私は千八百七十三年九月八日という日を限りなく有難く思う、これは生きていることに感謝の気持ちを書き表わすほんの一つの方法である。そして誕生から今までにあったすべての記念日の中で、私の第八十五回目の記念日は最も幸福なまた最も意義の深いもの一つになる見込みである。その時々々の記念日はいつもそうでなくてはならない。

幼年時代にあっても、また華やかな青年時代を通じてさえも「八十代」は遙か先きのことに思えた、そしてこのような高齢に達した人々は疲れ果てた弱々しいものに思えた。しかしながら、今日私は青年時代に永い旅であると見えたものが本当に非常に短いものであることを知っている、また前以て人生の中で喜びのない部分であると思われたものが、最も健全な貢献的な時期であることを知っている。私は、現実に八十五才であることが幸福な生活の妨げにならないことを見出して喜んでいいる。

人は歳月と共に老いるかも知れないが、歳月と共に友情は濃やかになり、人生は一層こくがあり豊かなものとなる。もしもそうでなかったなら、毎年の誕生日は不吉な前兆

じみたところがあるであろう。ところで、多くの友人と気の合った相手と福音と永遠の真実によって、誕生日はなお人生という非常に楽しいまた興味のある旅路の中にあつて人に元氣をつける出来事である。

もしも私が八十五才で受けている数々の祝福を挙げるならば、私は健康、楽しい思い出、労働の喜び、神とその仁慈とを信ずる信仰、神の子らのために働き祝福を受ける自己を忘れた願い、誠実な友人、兄弟愛、愛する者たちの親しい交わりと愛と、またいつくしんでいるこれらの愛する者たちがいつも限りなく私たちのものであるという保証などを列挙したい。

人生をして過す価値あらしめるものは、いつくしみ深い御父を信ずる信仰とわが同胞を信ずることである。真に誠実な友情から湧き出る靈の平安と溢れる滋味とを経験した者はまことにさいわいである。

私の生活はこれまで幸福な生活であつたが、幸福な生活を送る今一つの秘訣は、自己の仕事を愛してこれに全力をうち込むようになることである。私は人生に於いて、毎朝目が覚めたらその日の仕事を待ち設けることができる以上に満足を与えるもののあるを知らない。また、全く良くやったという感じを以て一日の終りに休むこと以上の満足があるのを知らない。

そういう風にして人は他人のために自己を無くする。これは主が「わがために生命を失う者はこれを得べし」(マタイ伝十の三十九)と仰せになったときに言明したもうた偉大な原則に触れている。それは理くつに合わないようであるが本当である。それは人が人生に

於いてどのような地位を占めて居ようとも、あらゆる者にあてはまる。

その理想に従う者は、自己に同情を寄せる暇はほとんどないか或いは全くないにちがいない。自己同情は大ていの場合喜びを殺す者である。他人を幸福にすれば自分が幸福になることは最も基本的の原則である。

私は今日ほど、私の両親が示した模範的生活と、青年としての私に両親が教えた尊ぶべき立派な原則の實際的応用に就いて深く気づいている時はこれまでになかった。長い歳月を回想する時は、これらの事はこれまでも何ものにも勝って私を助けて来た道しるべのように目立って見える。私の父は私に為す価値のあることは良くやる価値があるという原則を教えて自らこれを行つた。私は少年のとき垣根の柱をしっかりと立たせるために玉石を運びながら、また父が畑のうねを真すぐに起すのを見守りながら、また父が他の畑仕事をするに当っていつも変わらず完全にやるのに目を留めながら、当時私はこれらの教訓が後年私にかほどまで持続して変らない印象をのこすことができようとはほとんど実感をしなかつた。私は身近にあるこの世のことはもちろん、道徳的な正しい生活にもあてはまる労働と礼拝の教訓を父から学んだ。どのような義務やどのような仕事を身に引き受けようとも、われわれはそれを実行し且つ全力をそれにうち込まなくてはならない。

私の母が示した美しい模範もまたいつも私の忘れられないものである。私の母は優しさと忍耐と誠実とを具え、常に理想通りの教養と気品とを兼ねた婦人であつた。母は本當にその子供たちの心の

中に美しく永つずきする印象をのこした。

家庭生活はきわめて効果的な、静かではあるが肝に銘ずる感化をすべての子供たちの生活に及ぼす。私はすべての両親が、その日常の行為と品行と態度とが自分たちの子女にどのような影響を及ぼすかを真に悟ればよいに思う次第である。

私はまた、われわれ子供たちが教育界に入ることが可能になるために捧げられたぎせいを思つて感謝の言葉を述べる。私はこの機会を通じて私の生涯の伴侶に逢うことができた。彼女はその時以来いつも私に靈感を与える者であり、七人の子女の母であり賢明な保護者であり、わが美しい家庭の中心である。

私は当教会とそれが若い人々に提出する多くの機会、すなわち私たちが日光を受けるように考えることなしに受け入れていることがある数々の機会に対して非常に感謝する。私たちは考えることなしに受け入れているが、初等協会、日曜学校、MIA、特に聖餐会と神権定員会に出席する機会は、私たちの生涯の中で大きな影響を及ぼすものである。

人生の喜びに寄与する要素として、愛する者への愛に次ぐものは教会に於ける兄弟愛である。この兄弟愛をどのように表現しても、それは心を軽やかにし人生に新しい興味を与える。私にとって、兄弟愛のない人生は不毛の砂漠であるが、兄弟愛があれば人生は多くの実の成る愉快な谷間である。私は、私の同僚を人生に於ける最も貴重な財産の一つとして愛している。晩年に、人はとても言い表わすことのできない力と喜びの源、人生に於ける如何なるほかの交際にも見出すことのできない或ものである神権者（および教会員）の有っている交友と兄弟愛の真価が本当にわかる。私は年をとるにつ

れてますます兄弟愛のきづなが貴く思える。

最後に私は、人類の間に平和を確立するために立てられたキリストの計画を知っていることを心の底から感謝する。その計画が効力を有っていることの保証は、筆にも口にも尽せないほど身と霊とに平和を生ずる。

私は御父と御子とが予言者ジョセフ・スミスに現われたまい、まことに「救いを得さする神の力」（ロマ書一〇十六）である、イエス・キリストの福音を彼を通して回復したもうたことをいつも変ることなく証しをする。私はまた、福音の真理に就いての知識は、福音の諸原則に従うことによつてのみ得られることを知っている。言葉を換えて言えば、どの原則でもよいがその原則が真理であることを知る最も良い方法は実行することである。救い主が「人もし御ころを行わんと欲せば、この教の神よりか、わが己より語るかを知らん」（ヨハネ伝七〇十七）と仰せになったときに指示したもうた道こそこのような道である。

私は今一つのことを証ししたい、すなわち主はこの教会すなわち主の教会を導きたまい、また「……あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる世の人々に……」（教義と聖約百三十三〇三十七）福音が述べ伝えられるに先立って、万国の民の運命を現に支配したもうことがそれである。

以上は、私が八十五才になる間ぎわに私の心の中に動いている楽しくて快いそして人の心を落着かせる数々の考えの中にあるいくつかの考えである。

神があなたたちすべてを祝福したまわんことを、そして喜びと平安と成功が常にあなたたちと共にあるように祈り奉る。



# 科学と宗教

ポール・C・アンドラス

科学と宗教とは両立することができようか。科学の教えるところを受け入れて、しかもなお宗教の教えを信じつづけることができるでしょうか。以上の質問に答えるに当てまず第一にこれらの質問をもっと明確にしなければなりません。それはどの言い表わし方に於て「科学」および「宗教」という言葉はどういう意味で使っているか、まるで不明瞭であるからであります。本当の科学とモルモン教とは両立することができようか。科学の本当の教えを受け入れて、しかもなおモルモン教の教えを信じつづけることができるでしょうか。このように明確な言い表わし方で述べた時には、以上の質問に対して明確に「然り」と答えることができます。本当の科学的の教えとモルモン教会の教えとの間にはどのような衝突もありません。

話を続ける前に「科学」および「宗教」という言葉をちょっと考えてみようではありませんか。この二つの言葉は普通に使われていて、これらを口にする人は、誰でもほとんど例外なしに、自分が今話していることを正確に知っていることを示す様子をしてこれらの言葉を口にします。しかし、私たちはこれら「科学」および「宗教」という言葉を使っている人々の中でそれらの言葉の意味が有っている具体的概念をつかんでいる人はたとえ有ってもごく少いという理由によって、このあいまいな使い方に対して強く反対するものがあります。この二つの言葉はきわめて意味の広い言葉でありますから、このような意味の広い言葉に基いて結論を立てることは非常に危険であります。「科学と宗教とは両立することができようか」という質問は、私たちの考えによると、きわめてあいまいであ

ってほとんど意味のない質問であります。これらの言葉の意味を一層明確に定義しない前に、このような質問に対して答えようとしてはなりません。「科学」と「宗教」という言葉の定義をまず下さないで「科学」と「宗教」に関する質問を検討したり議論したりする無数の人々は、何ら合理的な結論に達することなく多くの呼吸を浪費するだけに終るにちがいありません。それでこの際この二つの言葉をもう少し明確に定義しようではありませんか。

「科学」という言葉は、普通の使い方で、学問的な研究と観察による知識の組織体を指して言っていると思われる。一方「宗教」という言葉は神を信ずる信仰に関係があると通常理解されています。これらの定義をもっと簡単な言葉にちぢめて言うならば、「科学」は「学問的な知識」を意味し、また「宗教」は「神を信ずる信仰」を意味すると言うこともできるでしょう。さて、私たちはいくらから前よりも具体的な質問を有って居ります。すなわち「学問的な知識と神を信ずる信仰とは両立するか」。これでもなお、この質問に対する答えは「学問的な知識」とはどんな特殊な学問的な知識のことを言い「神を信ずる信仰」とは神を信ずるとどんな特殊な種類の信仰を言うのかによって違ってきます。それは学問的知識には多くの別々の分野があり、また神の性質に就いては多くの異った信仰があるからであります。それにもかかわらず、この質問は今や幾分の理解を得るために充分明確であり、また幾分理解し得るような答えをするために充分明確であります。その答えはすなわち、学問的な知識と神を信ずる信仰とは両立しないと考えている人々もあれば、一方

学問的な知識と神を信ずる信仰とは両立すると考えている他の人々もあるということでありませぬ。

ここで、世界の最も偉大な科学者であると認められている人々の多くもまた或る形かまたは何かの形で神を信じて居り、またますます多くの科学者が神の存在という真理を認める強い傾向があるということを言わせてもらいたい。アメリカ調査研究所の所長兼委員長でありコロンビア大学工学部の前学部長であったジョセフ・W・バーケル博士は、或る大学の卒業式で述べた演説の中で、十九世紀の科学者たちは彼らの観察を確信して迷わされ、その結果として明らかに無神論的な結論に到達したということの説明し、さらに最も独断的な物質論者たちでさえも現代の科学的知識を前にしては神は本当に存在するという避けられない結論に導かれると説明をしました。バーケル博士の言葉によって見れば、神の存在をまだ認めていない科学者はその思想に於て五十乃至百年ほど時代からおくれて居ります。世界には、学問的知識のあらゆる部門に神を信ずると公言している多くのすぐれた科学者たちがあります。

神の存在を認めない科学者たちは今や少数であるとは言え、なお彼らはその無神論的信念を公言して居ります。ロシアの政府およびすべての共産主義政府は、それらの根本的原則の一つとして無神論をこれまで公けに採用して居ります。ほんの数週間前に、ロシア当局のラジオ放送網で放送をしている一人のアナウンサーは、もしも神が本当に存在するならば何故神はその存在することを証明するためには自らを現わして偉大な奇蹟を行わないのかとたずねていました。

このような誤った考えの起る一つの原因は、神の性質に関して全世界に見られるあらゆる宗教的教義が何世紀という永い間に亘って間違っていたという悲しい事実であります。現在真実であると主張されている学問的知識の可成りの部分が実際に間違っていて、これがまた学問的知識と神を信ずる信仰との間の争いとなつてゐることも認めなければなりません。神を信ずる信仰に反対して戦う人々は、世界にある数々の宗教が声明してゐる神に関する誤った教義に本當に反対してゐるのであります。

モルモン教会の有つてゐる独特の性格は、モルモン教会が世界の中にあるすべての宗教は神の性格に関する教義に於いて間違つてゐると強く主張する事実によつて目覚ましいほどによく説明されてゐます。しかし、無神論者たちがモルモン教会は神の存在を實際に示された事実であると声明してゐます。モルモン教会の会員たちは神が實際に生きたもう御方であることを知つてゐるばかりでなく、また神の性格に就いて正しく理解して居ります。モルモン教会の会員たちは、神が骨肉より成る不死不滅の体を有ち完成された性格を有つ完全の域に達した人であることを知つて居ります。これは神の神性を何ら傷つけるものではありません。それはこの御方が疑いもなく全知全能であつて全宇宙の偉大なる組織者であるからであります。モルモンの教義と学問的知識とはすでに著しく一致してゐて、科学が進歩するに伴い不一致の範圍は次第に姿を消してなくなつていきました。モルモンの科学者たちは人に知られた科学のほとんどあらゆる分野に於て傑出して居ります。この科学者たち

の宗教はその科学者としての地位と相容れぬものではなく、かえつてその生活とよどみなく調和しその仕事をするに當つて彼らに熱と力とを吹き込むのであります。科学の本当の教えとモルモン教会の教えとは完全に一致します。

しかし、どうしてこのような事があるのでしょうか。モルモン教会が世界中のあらゆる宗教の中で独特であるわけは何でしょうか。モルモン教会の会員たちが神の眞の性格を理解してゐるのはどうしてでしょうか。モルモンの教義が他の教会の教えよりもずっとよく科学の教えるところと一致してゐるわけは何でしょうか。これらの質問に対する答えは、神自身がモルモン教会の創立者であるジョセフ・スミスに現われたもうたということであり、神はこれまで神の教義をジョセフ・スミスとこれに続くモルモンの予言者たちに啓示したもうて居ります。それ故にモルモンの教義は真実であります。神自身がモルモンの教義を確立したもうて居ります。これが過去百二十九年以上にわたつてモルモン教会が世人に声明しつづけてゐる言葉であつて、またモルモン教会は万人がこの事を聞くまでの言葉を声明しつづけるにちがひありません。その言葉は真実であります。私たちはそれが真実であることを知つて居ります。そしてすべての不信者たちが神の存在の真実であることとモルモンの教えが正しいことを知る日が近づいて居ります。その通り、無神論者である科学者とロシアの政府とが、神がこの地球を支配したもうことを知る日が速かに近づいて居ります。その間、私たちは本當の科学と本當の宗教との間には何の衝突もなかつたし、またこれからもなと安心をしてゐることができます。

## 「福千年」

佐藤 龍 猪

幸福なるかな、聖なるかな、第一の復活にあずかる人。彼らは神とキリストとの祭司なり、キリストと共に千年の間王たるべし。

(黙示録二十〇六)

## 一、再臨につづく「福千年」

天使モロナイが予言者ジョセフ・スミスを訪れた際(千八百二十三年九月二十一日の夕)に告げた「主の大いなるおそるべき日」(教義と聖約二〇一)は、主が「能力と大いなる栄光とをもて雲に乗り」来りたもう「大いなる日」である(教義と聖約三十四〇七・八)。この「大いなるおそるべき日」の来る前には「地は震いて酔いたる人の如くよるめき、日輪は面をかくして光を与うることを拒み、月輪は血を浴び、諸星激しく怒りていちじくの樹より落つるいちじくの如く落ち」「上には天に、下には地に、更に大いなる前兆」が現われる(教

義と聖約八十八〇八十七、四十五〇四十二、三十四〇九、二十九〇十四)。そして地震、雷、電、暴風雨、わたつみの浪などはあらゆるものは皆立騒ぎ」すべての人々は恐怖に襲われて心気を失うに至る(教義と聖約八十八〇九十・九十一)。最初の天使のラツパが高く長く鳴り響いた後「半時ばかり天静まるや、直ちに天の幕開かることあたかも巻かれし後より巻物の解き開かるるが如くして主の面」が現われる(教義と聖約八十八〇九十五)。この時墓の中に入れていた義しい人々は墓が開かれるので眠っていた義しい人々は墓が開かれるので「出で来り、天の柱の唯中にて主と会わんため」に空中に挙げられる(義人の復活)。またこの時地上に在るすべての聖徒の身に

も大きな変化が起りその身が變つて主に会うために彼らもまた空中に挙げられる(教義と聖約八十八〇九十六・九十七、ニーフアイ第三書二十八〇八、テサロニケ前書四〇四一十七)。この際、聖徒の肉体に大きな変化が起るがこれは復活をするということではない(ジョセフ・フィードリング・スミス長老「完成への道」三三七頁)。これらの人々は天の雲に乗って再び降臨したもうキリストに会って共に地球へ下る祝福に与る人々であるが、もう一人の天使が第二のラツパを吹き鳴らすと「備えられたるひとやに在りてその分を受け居りたる者たち」が「肉を有てる人として審判を受け」るために復活して来る(教義と聖約八十八〇九十九)。また第三のラツパが鳴ると「審判を受くべき人の霊」が呼び集められるが、これらの人々は残りの死者であつて「福千年」の終るまで復活をすることができず、ひとやの中に居なくてはならない。この様に、キリストの再臨に際して地球は大変化を受けて現在の「星の栄光」の如き状態から「月の栄光」の如き状態になり、あらゆる罪惡が一掃され聖められた状態となつてキリスト自らが義の統治を行いたもう「福千年」の期間に入るのである。

二、新天 新地

「みよ、われ新しき天と新しき地とを創造す」(イザヤ六十五〇十七)という言葉は地球の終りに起る本質的变化を指すものではなくて、「福千年」の始めに起る大変化を言っていることはイザヤ六十五〇十八以下二十二に誌された言葉を見れば明瞭に理解されるところである(ジョセフ・フィードリング・スミス長老「完成への道」三四八頁)。また教義と聖約百一章二十三以下二十五節には次のように言っている。「その時この世を隠せるわが幕屋の中なるわが神殿の覆いの幕は取り去られて、あらゆる生物共にわれを見るべし。その時、すべて全地の面に住めるあらゆる腐るべきもの、すなわち人も、野の獣も、空の鳥も、海の魚に至るまでことごとく焼き尽さるべし。万物もまた酷熱にとけ、万物ことごとく新になり、かくてわが知識と栄光全地のの上に住まらん」と。すなわちキリストの再び来りたもう時に新しい創造が行われて地球は罪惡から潔められ「元にあられたまひて樂園の榮え」(信仰箇条、第十条)を受けるようになる。「福千年」が来る時地球は大きな

な変化を受ける。すなわち「彼はいと深き淵に命じて北方の国々に退かしめ、島々をして一つの地にならしめん。而して、エルサレムの地とシオンの地とは旧の所に復す。地球はそのいまだ分れざりし前の時代の如くにあらん。……一つの大路は大いな淵の唯中に現われ出で……不毛の砂漠の中に生ける水の池出で来り、焼けたる地はもはや湿いなき土地にあらざらん」と(教義と聖約百三十三〇二十三—二十九)。

三、「福千年」中の状態

「福千年」の前にはキリストの再降臨があり「福千年」の後には最後の復活と最後の審判という大事件があるが、「福千年」中のあらゆる生活はキリストの統治の下に於ける樂園のような祝福された生活である。「星の光榮」の世界にふさわしい者すなわち罪汚れの中に留る者たちは「月の光榮」の如き状態になった地球上の生活に堪え得ないので「福千年」の統治を受けることができない。「福千年」の始めにサタンは捕えられて「千年」の終るまで諸国の民を惑わすことのないよう繋いでおかれ(黙示録廿〇・三)、死人の或者すなわち「星

の光榮にふさわしい者は「千年」の終るまで復活することができない、しかし聖徒は神とキリストとの祭司となりキリストと共に「千年」の間王となるのである(黙示録廿〇・五六)。また「おおかみは小羊と一しよに宿り、ひようは山羊の子と一しよに臥し、小牛と若い獅子と肥えた家畜とは一しよに臥して小さな子供がみなこれらの先に立ってつれて行く。牝牛と熊とは一しよに食物を食べ子牛と熊の子とは一しよに臥し、獅子は牛のようにわらを食い、乳のみ兒は毒蛇の穴の上で遊び乳ばなれの兒はまむしの穴に手を触れる」(イザヤ十一〇六—八、ニーフアイ第二書二十一〇六—八)という平和な有様が見られる。「而して、その日には人の憎しみ、獸の憎しみ、突に一切生くる者の憎しみはわが面の前にあらざらん」(教義と聖約百一〇二十六)。またこの「千年」の中、人々は病に犯されず年老いるまで死ぬことがない、また死ぬといえども塵の中に眠ることなくして瞬く間にその身が變つて天に上げられ不死不滅の状態となる。(ジョセフ・フィードリング・スミス長老「完成への道」三三八頁)。これはすなわち復活である(Mメンディングリーナーの手引き、一九五八—一九五九年用、英文)すなわち

啓示の言葉には次の如く言つてある「而して主の来る時生き永らえ、信仰を保つ者は幸福なるかな。さりながら、その人齡充つれば死ぬるべく命ぜらる。この故に、幼児は年老るまで長じ、老いたる者は死なさん。されど、彼らは塵の中に眠るにあらずして瞬く間に変らん」と（教義と聖約六十三〇五十・五十一）。また「その日にはサタンは何人も誘う力を有つことなからん。……その日誰にても幼児は年とるまで死ぬることなく、その命は樹の齡と等しかるべし。而して彼の死ぬるや眠ることなからん。すなわちこの世に於て眠ることなくして、瞬く間にその身變りて天に上げられ、その休息は榮光に輝かん」と（教義と聖約百一〇二十八―三十一）。このようにして「福千年」の間に地球上には墓が作られない。イザヤは人間の齡について「日數わずかにして死ぬるみどり児といのちの目をみたさざる老人とはその中にまたあることなかるべし。幼児は百才まで生きて死ぬべければなり。されど、罪人は百才まで生くるものろわるべし（欽定訳イザヤ書六十五〇二〇）」と誌した。

#### 四、「福千年」中の教会

この「福千年」の中には死ぬべき身を有つた人々が地上に在つて、「復活体」を有つた人々の訪れを受けて交わり、親しく主キリストの統治を受けて教えを受ける。従つて「福千年」の中には地球上に種々の教会があり、またキリストの福音をまだ受け入れない者たちもある（福千年中の罪惡）。しかしキリストの福音は「福千年」中に世界の極まで宣べ伝えられ悔改めをせず福音を受け入れない者は地球上から滅ぼされて（ジョセフ・スミスの言葉、ジョセフ・フイーディング・スミス長老著「救いの教義」第三卷六十三頁）ついに全世界の住民が全部キリストの福音を受け入れキリストの教会に属するようになる。一方キリストの教会に属する聖徒たちは「復活体」を有つ人々と親しく交わり、靈界の知識に著しい進歩を見せて「神殿の事業」すなわち「死者のためのバプテスマ」等の聖式が盛んに執り行われ、彼らは神殿の中に在つてこれらの儀式を執り行うためにきわめて多忙である。「福千年を通じてわれわれは神殿を建て、何百何千年の間死の眠りの中にあり

且つもし機会さえあつたなら真理を受入れた人たちのためにその神殿の中で儀式を執り行い、またこれらの人たちを教育してアダムまでに至るひとつぎの系譜を作り上げるのである」（ブリガム・ヤング大管長）。

#### 参 考

教義と聖約（百三十三〇四十六―五十一）、イザヤ（六十三〇一―六）、イザヤ（二〇四・十一、六十五〇十七―二十五）、ミカ（四〇一―七、ペテロ後書（三〇四―十四）教義と聖約（二十九〇九―二十九、四十三〇十七―三十四、四十五〇十一―六十、六十三〇四十九―五十四、百一〇二十三―三十七）、教義と聖約（百十〇十三―十六）、信仰簡条（第十条）、教義と聖約（八十八〇八十六―八十七）、イザヤ（十一〇六一九、六十五〇二十五）、マラキ（四）、エレミヤ（三十一〇三十四）、ハバクク（二〇十四）、教義と聖約（六十三〇四十九―五十二）、教義と聖約（七十六〇五十一―八十、八十八〇九十六―九十九、黙示録二〇四―六）、マタイ伝（二十五〇三十一―四十六）、黙示録（十九〇五―九、二十一―十五）

# 極東に於けるセルモン

## 私の改宗

—御恩寵の記—

周 藤 珠 彦

(阿倍野支部第一副支部長)



私の父はたいそう信仰心の強い人でした。父は神様に深い信頼を持っていました。常にこれを見ていた私は幼心で神様の生きていらつしやる事が心に染込んでいました。

一九〇五年大分市に出で導かれて日本美以(メソジスト)教会にまいりました。浜田牧師は親切に導いて下さって一九〇六年の初夏米国宣教師W・A・ウイルソン師から洗礼を受けました。

一九〇九年郷里の田舎に帰ってからは教会もなく同信の友もなく淋しく暮していましたが、一九一一年から、キリスト教ライブラリーのA・ピータルス師の好意によって沢山の宗教関係の書物を読ませて下さいました。その間に信仰を養われ、一九一五年頃講義所ができましたので、家から四里(約十六キロ)の山坂を越えて妻と幼児を連れて日曜日毎に、礼拝に出席しておりました。

その間に大分県下には教育界に反キリスト教運動が起つてクリスチャンに圧迫が加わってまいりました。友人先輩たちの忠告もありましたけれども大日本帝国憲法に信教の自由を許されているものを妨害するとは非立憲も甚だしいと主張して決して節を曲げるような

事はしなかつたのです。圧迫や迫害が増すと信仰には益々熾烈の度を加えらるゝものでありましてまたいよいよこれに対抗して立つためには徹底した信仰と知識の必要なことを痛感して、牧師の学校にでも入って勉強したいとの願望を起し、当時関西学院に勤務せられていた衛藤衛という方の夫人クラという方が妻の学友であつた関係上、この方に頼んで上阪の手續をし、一九一七年三月兵庫縣に出向を命ぜられ教職に勤務の傍、神学校に入学したい希望をもっていましたけれども学院には夜学がないので勤務と両立せずこれは断念して受験によって牧師にならうと志し、先づ定住伝道師の試験を受けましたところがこれにパスし御影教会の定住伝道師に任命せられ一、二年にして退任し、生けるキリスト教会はないかと、各派教会に出入して、燃えたる信仰が得たいとの念願で熱心な教会信仰に燃えたる信者牧師を尋ねりバイブルの集会にも出席して見たが、何れも人為的で天よりのものでないので満足を得なかつた。

偶々非常に恵まれた青年たちの集りが神戸を中心の開かれましたので私もこれに参加して、恵まれて来ました。

一九二〇年の春の頃小集会に出席してひた

すら祈りに熱中していました時集りは二階座

ります。

敷でありましたが私は祈の最中床上に倒れて体の自由を失い口を利く事も出来なくなつたそれは御霊の臨みたまひしに由るものでありまして恵みの極に達した状態であります。その集会も終り、帰途ふと御影の町を通過し終ろうとしたところ夜で時刻はまだ早かつたが御霊により地獄の真相を見せつけられ、どう

この事があつて以来何れの教会も全く世の物であり神の御国のものでない事が分り、たまに教会に行つても、主をしたいまつる兄弟姉妹と交りを共にすることゝ天父に礼拝を捧げる外何の目的もなくなりました。そのため教会には遠ざかり専ら祈りを事としておりました。

の日に忘れぬようにその本を持って来て下さるように熱望しておいた所幸な事にこの經典の入手ができました。夫れから郷里大分県に帰省の途中船中でも車中でもこれを読みつけ帰省してからは夜を徹して読みました。私の霊は躍動を禁ずる事ができません。非常に恵まれました。

してよいか分らなくなり煩悶の極に達しました。何故なれば私が当然こゝに入るべきものである事を示され、居ても立つてもいられなくなり、もがいてもどうしても絶対に逃れる事はできず、恐ろしさと苦しさをやるせなき心、それは譬えるに物が無い、実に深刻極まるものであります。そこで意を決し、家を捨て妻も子も親も何もかも一切がっさいをかなくり捨てゝひたすらに主イエス・キリストに縋り奉る外何らの方法も手段もない事を示され、家に帰らず直ちに私のいつも祈っていた大石の林立せる広野の祈り場所に行つて坐り込んで、主の御救いに与らなければ死んでも家に帰るまいと必死の覚悟を極めて熱禱を捧げていました所、深夜突如として鴻大無辺の御恩寵に浴しました。内容は記す事を許されませんが爾来今日までこの事は私になされて居

たま／＼孫たちが行つておる日曜学校に行つて見たいと思つてまいりましたところ、これが末日聖徒イエス・キリスト教会で当時帝塚山に支部がありプライス長老にお目に掛りましたのが本教会を知りました始めでありました。

一九二〇年以來私の上になされたような事柄が聖書の中にはどこにも見当りません。然るにモルモン經典を見て行きますと一つ一つピン／＼と符合するものが出て来ます。その度「之だ之だ」と跳り狂わんばかりです。「我心に在る御霊の働に由りて予言す」*Hz. 1:6*「我胸に宿りし天主の霊」*1 Nep. 15:12*

一九五〇年でしたかタッド長老とキャンプイールド長老が私の学校に見えてバイブルクラスを開かせてくれるよう校長に願出があつたので校長はこれを承諾し私がクリスチャンであります關係上その世話係となつていたのでした話を聞いても人の名前も所の名前も全然キリスト教のものでないように思われるが何かまとまつた知識の得られる書物はないだろうかと聞きますとモルモン經典という書物のあることが分り、もうあと一回のバイブルクラスで夏休になるといふ時でしたのでそ

「御霊はニーファイの口を開きて語らしむるに因り彼は口を噤むこと能はざりき」*1 Nep. 1:27* アルマ書五章四七を讀んだ時などは欄外に「我この記録を残さしめ給ひし天父に感謝し奉る……」と記しました。またラモーナイ王に起つた出来事および同後に起りし事項御霊によりて倒るゝ理、復活の力等聖書中にて探り能わざる所、「聖霊を受けなば聖霊は汝等の行くべき事を悉く教えん」とまたこれを受くる秘訣等多くの奥義が示されてある。

この書の与えられし者の至幸のほどを思い

感謝を絶叫してその声を天にまで上げるものであります。

私はモルモン經典は聖靈の書であると思いません。聖書に対して世界にこの書のなくてはならぬこともよく分りました。

教義と聖約また実に潑刺たる御靈の御働を直感します。末の世に生れてこれらの書を讀む幸を与えられし幸福を痛感いたします。

マース伝道部長様が日本伝道部の全會員を御訪問下さった事がありました。その際部長様は二井長老に案内されて私をも御訪ね下さいました。お見えになると二井長老は二十分間以内の訪問時間だと限られた時間でありましたが実に一時間余もお留り下さいました、

最後に「私は會員に恵を与えんとして来て、却つてあなたから恵をもらつて帰ります、あなたはイスラエルです」との有難いお言葉を残してお歸りになりました。またお召に依つて本部へ集りました時ミス長老を通訳のためお呼びになった時にも「周藤兄弟はイスラエルですよ」と仰せ下さいました。私はその後パートタイム宣教師に聖任せられ南中央地方部長の管下にあつてパートタイム宣教師の管理を命ぜられ、パートタイム宣教師制中止の時まで在任いたしました。

私はこの間に幾多の御思寵に浴して来ましたが、また恵によつて娘も妻も會員に加えられる感謝に堪えません。

主は「我は道なり真理なり生命なり。我によらでは誰にても御父の御許に至るものなし」とこれは真理中の真理、道中の道実に永遠不変の生命であります。

如何なる財宝も如何なる名譽も如何なる權威も如何なる榮華もこれに及ぶものは絶えてありません。至宝中の至宝であります。

天上天下全世界昔も今も未來もこれに勝る何物もありません。これは永遠不滅の重宝であります。たとい肉の生命を断たれてもこれを断つ事はできません。

この至宝中の至宝は人は何人たるを問わずこれを求めこゝに至るべきであります。また誰彼の差別なく主は与えたまいます。与えたもう事が主の御旨であり主の御望であります。主はこのため十字架につきたまいました。得られないのは切に求めないからであります。「求むる者に聖靈を与えざらんや」と主は仰せになつておられます、また求めて得ざるは肉の慾を満たさんとするが故なり」とあります。希くば我愛する兄弟姉妹よ、主の御恵の御座の前に進み出でましよう。

## 一言集

実行力もしくは忍耐力によつてそれを自分に適したものにすることの出来ないどんな境遇もない  
ゲーテ

悦びは努力が完成へと向う時その努力の中に住んでいる。  
ジイド

我々人間の生活は單なる反復ではいけない  
發展でなければならぬ。  
エマーソン

困難いよいよ甚しければ、いよいよ多く  
苦しさをなすべく、危険いよいよ甚しければい  
よいよ多く勇氣をあらわすべし  
新島襄

苦痛の感覚が我々の肉体を保つ上になく  
ならない条件であるように苦惱はまた我々の  
人生が絶えづ向上するためにはなくてはなら  
ない条件である。  
トルストイ

苦惱は活動への覺醒である。苦惱の中に  
我々は生命を持つていのである。カント

〈今月の出来事〉

日本の地の献納  
ウィルフォード・ウッドラフの死  
モロナイの訪れ

日本の地の献納

(九月一日)

ましよう。」

「大いなる、進歩的國家なる日本に対する演説」一九〇一年九月二十六日刊の「ミレニアルスター」六百二十五ページ—六百二十七ページ

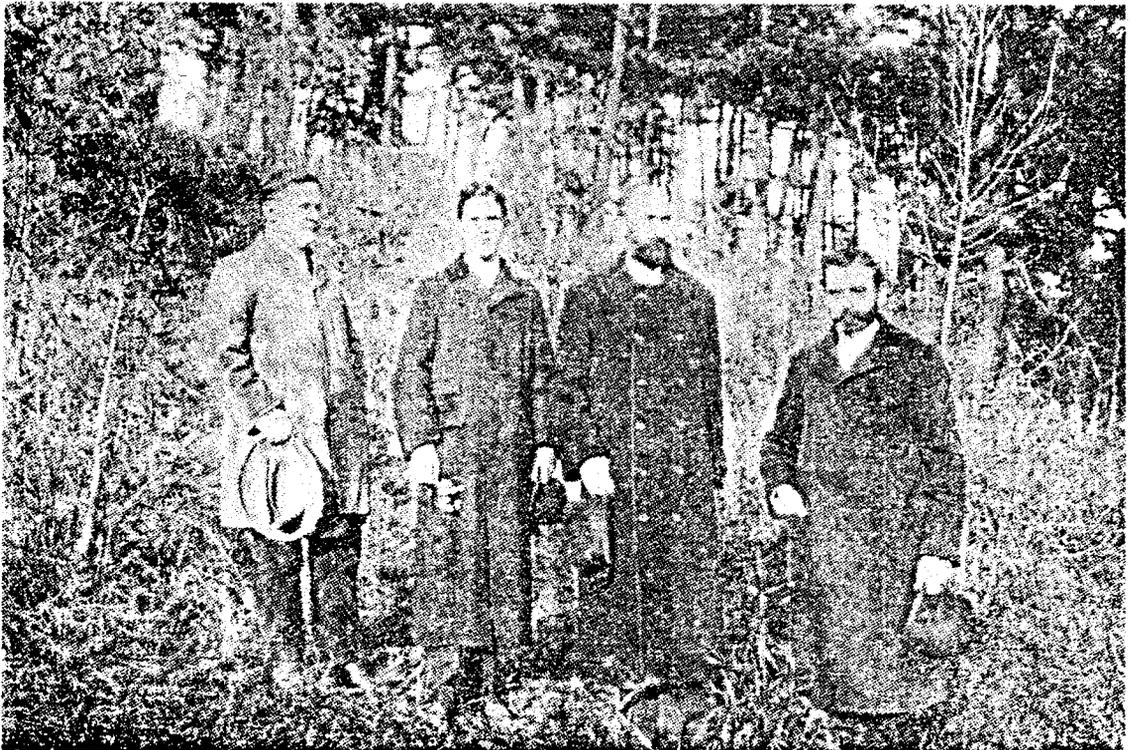
「いと高きに在す神の聖徒として、また伝道者として、私はあなたがたに御挨拶を申しあげ、私たちの持つてゐる大切なメッセージを深く考察されるようにおすゝめします。私たちはあなたがたの信ずる真理を取り去ろうとしてこゝに参つたではありません……私たちはより大いなる光、より多くの真理、そしてより進んだ知識を持つて参つたのです……私たちはあなたがたが私たちと同じ父なる神の子供たちである事を知つて居ります……私たちの使命は義務の一つであつて、神の御言葉と御心とを世に広めるよう、神に命じられてゐるのです……。神の尊い権能により、私たちは今、日本の人たちのために鍵を使つて神の王国の戸を開きます……。私たちは金で買うことの出来ぬ祝福をあなたがたに与えます——。これは人間の祝福ではなく、また人間の力によつて与えられる祝福でもありません。……光明と真理のもとにおいてなさい。そうすれば、必ずあなたがたの心は平和と愛と「よろこび」とにみち溢れるであり

横浜に上陸してから後、グラント伝道部長が日本人に対して与えたメッセージは以上の通りで、これは当時の主なる若干の新聞紙上に掲載され、また同時に各新聞社は「モルモン教徒」について極めて多くの論争を印刷して出版してゐた。九月一日(断食の日曜日)——上陸後二週間余りしてから、宣教師たちは彼らの宿舎を出て、十一時頃、祈禱会を開くために森に入つて行つた。二十分程歩くと横浜の南部に位じて、外人住宅地と湾との間に横たわる丘の上にある隔離された森にやつて来た。そこで彼らは「感謝す言者」を歌つて開会し、各自が代る／＼祈つた。次に一緒に「恐るな聖徒よ」を歌い、続いてグラントが福音を宣べ伝えるために日本の地を献納した。テイラーはこの時のことを次のように記録してゐる。

「彼の舌は和げられて、「みたま」は力強

く彼の上に留った。故にわれわれは神の天使が近くに在す事をひしひしと感じた。何故ならわれわれの心は彼の唇からもれる言葉により熱くもえたからである。私は今までこれほどに温和な力を経験したことがなかったし、またこれほどに力強い祈りを聞いたこともなかった。一言一句は私の骨髓にまでしみ通り、私は余りのよろこびに感涙にむせんだのであった」(父親宛のテイラーの日記一九〇一年九月一日)

.....  
 献納の祈りともう一つの讚美歌が終ると、グラントは、オリーブの山でユダヤ人の故国と集会所としてパレスチナの地を献納した時に使徒オルソン・ハイドによって捧げられた祈禱文を読んだ。これに続いて、



日本の地の献納の日 (右よりケルチ、グラント、テイラー、エンサイン各長老)

四人が各自話をし、再び讚美歌を歌って、閉会の祈りを捧げた。(テイラー「日記」一九〇一年九月一日)

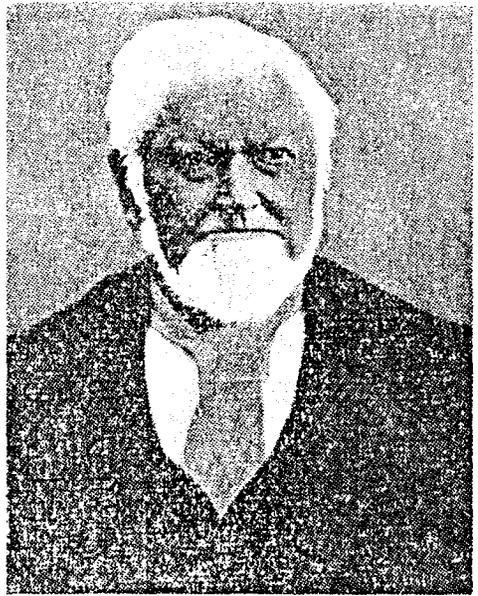
こゝはこのような初期の宣教師たちにとって神に捧げられた聖なる土地となった。彼らはこの記念すべき日がやってくると、必ずこゝにやってくる集会を開き、最初の日に顕示された「みたま」に再びみたまされたのであった。(マレー・ニコルス著、日本伝道部の歴史より)

## ウイルフォード・

## ウッドラフの死

(九月二日)

千八百九十八年七月二十四日、かつて千八百四十七年に営倉が建てられた地パイオニア・スクエヤは公園として奉獻された。この祝賀の式に公開の演説をしたのがウッドラフ大管長の最後の思い出となった。それから数日後に、大管長は健康を回復しようと思つて太平洋岸に向つてソルトレークを出発したが、千八百九十八年の九月二日カーネル・イサーク・トランボ邸で世を去った。これより先、大管長は教会が負っている借金がなくな



ウルフ オード・ウッドラフ

くれた日記をつくった。

## モロナイの訪れ

(九月二十一日)

一八二三年九月廿一日の夕方、ジョセフ・スミスはモロナイと名宣る天の使のおとづれを受けました。天の使は神の命によるのであって、近くの丘に隠された書き物があり、それはジョセフが翻譯と出版のために所有を許されるものである旨を語りました。モロナイはその書物は神の御民の記録を誌した黄金の何枚かの版より成り、その記録はモロナイの父モルモンの手によって大部の記録より編んだものである旨を語り聞かせました。

るまで生きていたいと切に願っていたが、ついにこの特権を得ることができなかった。教会はかの改革運動(多妻主義の)中に受けた財産の没収と数々の迫害のため財政的に窮乏していたが、この弊害を除く働きは後継大管長に任せられた。

翌日、ジョセフはその丘に行つて直ちに天の使より教わつた場所を見付けました。彼は岩をとり除きその下に石の函を発見致しましたが、そこには三箇の輪でとじた黄金の版と、それと一緒に二箇の透明な宝石と一振りの剣とがありました。しかしながらジョセフはこれらの品々に触れることは許されず、その場にまた姿を現わしたモロナイから、「向う四年間毎年この場所を訪れるよう。そうす

れば四年後にかの金版は汝に与えられるであらう」という命令を受けたのでありました。

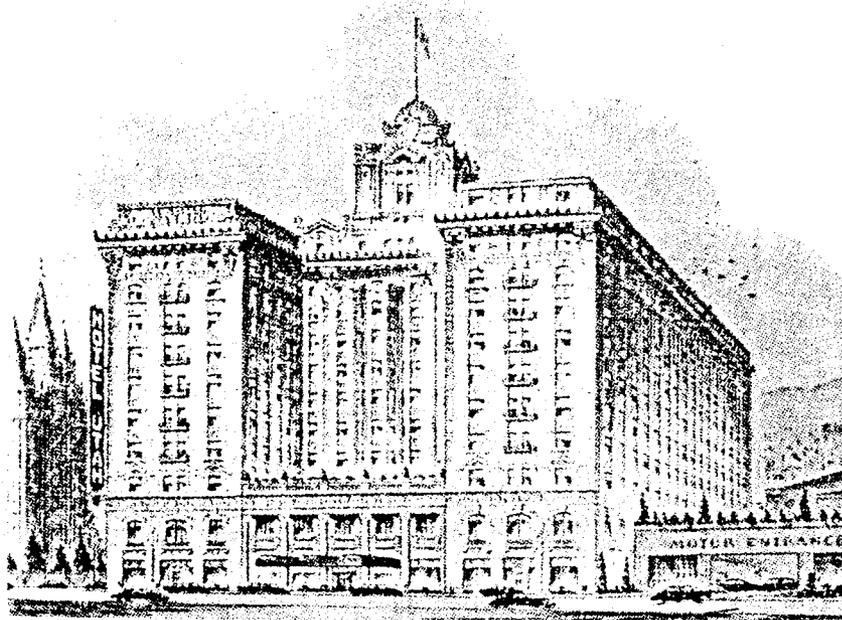
ジョセフは命令の通り、毎年その場所でもロナイと会つて、イエス・キリストの福音の回復とその教会の再建に関する言付けを受けました。一八二七年九月二十二日、ジョセフはその金版を手に入れて直ちに翻譯を始めました。この事業を彼は「ウリムとトミム」と呼ぶ二箇の宝石を通じて神の御力によつて成し遂げました。程経てこの記録は英訳され「モルモン経」の題名で出版されたのであります。(クリソード著「モルモン教会の手引」より)



金版を受けるジョセフ

# 西部実業界の雄

## 教会関連会社



ユタ・ホテル

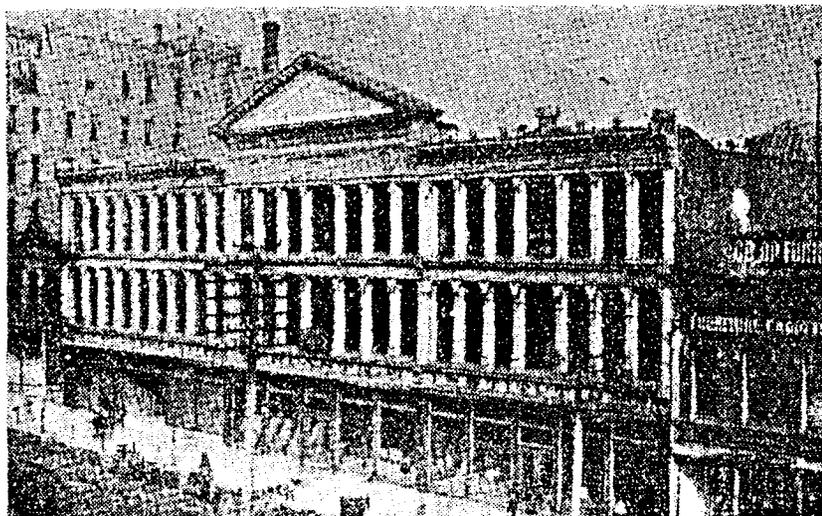
ソルト・レーク市を縦に走るメイン・ストリートと横に走るサウス・テンプル・ストリートの兩道路に面する巨大なデパートはZ・C・M・Iとして有名なシオン協同商会である、設立は一八六九年であるからすでに九十年の長い間ユタの商業の中心となり、物価の変動をふせぎ定価の一定の為に大きな指導的立場をとって来ている。

一八六九年といえはユニオン・パシフィック鉄道すなわ

ち大陸の横断鉄道がユタで感激的な開通を迎えた年である。ブリガム・ヤングは一八六八年にこの事をすで見抜いて居り、経済的に大変動の起るのを知って、「ユタの人々は自ら商業に従事すべし」と宣言していたのであった。ロッキーの山中にグレート・ソルト・レークを建設したとはいえ、東部とはまったく隔絶していたので、当時、商業はあまり発達していなかったのである。ブリガム・ヤングは末日聖徒より貨幣の流出を防ぎ、商業面に於ける主導権を会員ににぎらせようと考えたのである。

その結果シオン協同商会の設立となり、各地に支店を設けて大々的に商業に参加したのであった。ユタの経済界はそのおかげで落着く事が出来たばかりでなく、末日聖徒たちは自己の資本を運用する事が出来、聖徒の社会的平等を大いに保護する事も出来たのである。多くの人は末日聖徒イエス・キリスト教会が霊的な団体であるに加えて、大きな事業団体に關係している事を大変奇妙に考えている。彼らはどうして教会が神と富の両方に仕える事が出来るのかと不思議に思っているのである。

末日聖徒は教会が霊的な団体であると同時



シオン協同商会デパート

に事業団体と関係している事を決して異常な事だとは思っていない。事業にすぐれている事を富を拝することと一緒に考えている。むしろ教会が物質的な富を賢明に使う事によって、神に対する奉仕のために役立たせていると考えているのである。

「あなたたちは自分の兄弟を自分自身のよ

うに思え。かれらと皆親密にして、あなたたちのようにかれらも富者になるように惜まらずにあなたたちの財産を与えよ。財産を求めぬ前にまず神の王国を求めよ。あなたたちがすでにキリストに望みをもつてから宝を求めたならばその通り宝が手に入るであろう。しかし、その時あなたたちがその宝を求める目的は、裸でいる者に着物を着せ、飢えている者に食を与え、束縛されている者を救って自由にし、病んでいる者と悩んでいる者とを救うなど、およそ善事を行うことである。」(モルモン経ヤコブ書第二章十七節~十九節)

この教会は現在十三の事業団体に関係している。いずれも西部では屈指の会社である。

◎シオン協同商会 (Z.C.M.I.)

デパート事業、同商会の五十パーセントは教会の所有である。

◎デゼレト・ニュース出版会社

ソルト・レーク市の日刊新聞社、西部一の印刷会社、全部教会の所有。

マーク・E・ピータソン長老が現在社長である。

駆け出しの新聞記者から社長の今日まで三十五年彼はここで働いている。

◎ユタ・アイダホ砂糖会社

同会社の八十パーセントと約五十パーセントの普通株は教会所有。

◎ベネフィシヤル生命保険会社

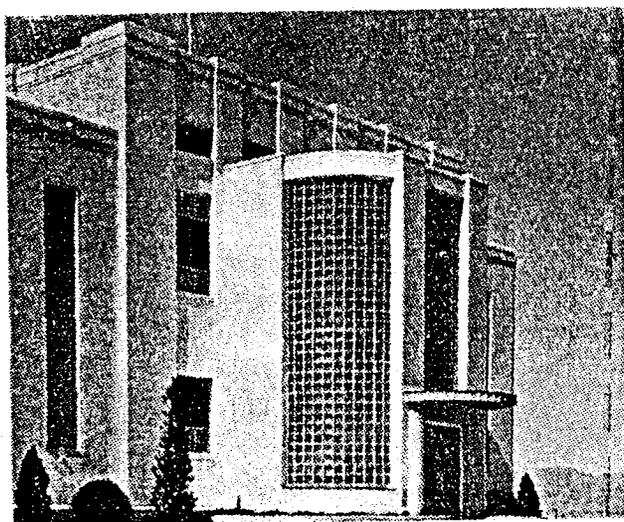
二十五パーセント教会所有、つい最近まで社長はデビッド・O・マッケイ大管長であった。インプルブメント・エラ誌の広告でなじみ深い会社である。

◎ユタ・ホーム火災保険会社

二十五パーセント教会所有。

◎ヒーパー・J・グラント会社

ユタ・ホーム火災保険会社の総代理店。



K・S・L 送信所

# 永遠の家族組織

ジョセフ・F・スミス大管長

にあるだろうか。

われ／＼の交際は、永遠よりながめる時、この現世に対してのみを意図されたものでないことを知る。われ／＼は、一時のみならず、永遠に生きているのであって、一時的のみならず、永遠に交際と関係とを保持するのである。この点より考えると、われ／＼の愛も願望も、この世のみならず、永遠を通じて適切と見做され、且つ耐え忍ぶための備えをしているものであるとわかる。

墓を越えたところに於ても、われ／＼は家族の組織を持続し、父、母、子供はみな、その相互の關係に於て互に認め会い、互に頼り会い、しかして、この家族組織は、神の御業の偉大にして、且つ完全なる組織の一端であるから、すべての人が、一時のみならず、永遠に生き続ける運命にあるということを考える人は、末日聖徒の他

○ ○ ○

如何なる人も、常に自分の子供たちの幸福を考えている。私の心は、子供たちがいなくなったら、決してみだされることのない。子供たちは、私の一部なのであり、私自身のものなのである。神は、子供たちを私に与えたまい、私はそれらすべての子供たちが謙遜で、且つ神のみ教えを受け入れる人であつて欲しいと思つてゐる。また彼らが正しい行いをし、如何なることに於ても正しくあるように希望している。かくすることにより、他のすべての人々に優る神の聖約の民の中に数えられるという、他の人々と明瞭に区別され得る特殊なる人物となり得るであろう。何とならば、彼らは真理に於ける自己の救いために、犠牲を払っているからである。

二十五パーセント教会所有。

◎ K・S・Lラジオ・テレビ

C・B・Sのアウトレット、教会はその殆んどを所有。

◎ デゼルト書籍出版会社

西部最大の書店、凡て教会所有。

◎ シオン第一国際銀行

五十パーセント以上教会の所有。

◎ シオン・セキユリティ・コーポレーション

不動産会社。全て教会所有。

◎ ホテル・ユタ

ソルト・レーク最大のホテル、教会が殆んどを所有。

◎ テンプル・スクエア・ホテル。

全て教会所有。

◎ オーランド家畜協会

フロリダ州の三十万エーカーに亘る牧場及びジョージア州の牧草地帯経営、五十パーセント教会所有。

教会の会員たちは個人的にまた実業界でも多方面にわたつて活躍しており、枚挙のいとまがない程である。著名な所ではアメリカン・モーターズの社長のジョージ・ロムニー長老（ミシガン・ステーク部長）あたりである。

# 一粒の麦



佐伯忠晴

(東京北支部)

私が人間および芸術家として尊敬しているアンドレ・ジイドの自叙伝に「一粒の麦もし死なずば」という本があります。これはヨハネ伝十二章二四節に「一粒の麦もし地に落ちて死なずば、唯一つにてあらん、死なば多くの実を結ぶべし」という聖句に由来する表題で私の最も好きな聖句の一つです。

## 証詞と信仰

現代の社会に於て、小さくは家庭、学校、会社から大きくは国家さらに世界の至るところに於て、最も必要な人間とは利己主義的な心を捨て、どんな小さなことでも、平凡なことでも積極的に他人の為に国民全体のためにいわゆる隣人の為に一粒の麦たらんとする人ではないでしょうか。

科学文明に伴う機械化の発展はめざましいもので、近代科学の発達が人類に偉大な

利益をもたらせたことは、万人の認めるところで例えば電気通信、交通機関の発達を取り上げてみただけでも明らかです。ソ連の「二十一世紀のレポート」を覗くと機械がもはや人間に代って考えることが可能だと言われています。私が小学校時代に興味を寄せて読んだ空想科学漫画が実現しそうです。もはや人間の為に機械があるのか、機械の為に人間が働かせられているのか迷いそうな時代に進行しています。何年か後には、機械が人間に代って私たちはその手下になるかも知れません。もしなつたと仮定したら……。彼(機械)は鉄の如く冷たく愛情もなく、私たちが何を言っても聞き入れず、不敵な笑いを浮かべ無口で、私たちが働かせるだけです。もし彼がけがをしたり空腹の状態になれば、彼はストライキを起し私たちの生活を脅かします。近代科学の合理化が人類に大きな利益をもたらせはしたものの、その反面、人間の本質が近代社会という環境に吸い付けられ、人間の行

動や考えが機械化され人間の内面にむかう力が弱まったという悲劇を生み出したことは事実です。すなわち、人間の理性が失われ反省力が低下したということです。この社会現象として、特に青少年の犯罪、金権政治等に現われてきたと言っても過言ではないと思います。理性が失われた結果、個人が無軌道になり、エゴイズムというガリガリ虫(サタン)が心に内在したためと思います。これらの原因は宗教や哲学が科学のように発展しなかったからではないでしょうか。発展しなかったということは、地球上に完全な組織を持った真の教会が広まっていなかったからではないでしょうか。

私たちはどんな社会でも人間の愛を失うことなく隣人にそれを奉仕すべきです。私たちは何ものにもまして、人間そのもの自己、人類、隣人を愛せずにはいられないで、不幸な人たちのために汗水を流して頑張ることに、人間としてプライド、喜びを心から感じ味うことのできる人になりたいものです。求める心は淋しいが捧げる心は豊かです。人を軽蔑したり、みえを張るような人ではなく自然にそうせずにはいられない人、こんな人こそ私は人類の宝であると言いたい。モルモン家族

の人たちは、人類の模範であり宝である。私も光のとどかない暗き谷間を照らしてやりたいものです。人間の間に隔りがあつてはならないと思います。「いも洗いの如くにあれ」と言いたいのです。彼らは他人の背中を仲良くお互にこすり合いながら自分の体を磨きます。人間もこのように他人に良いことをして上げれば、かならず自分に豊かなめぐみとすばらしい祝福が与えられるということを知っています。こんな小さな考え、願いを聞く耳のある人、それを働かせる能力のある人々が、ちょうど静かな湖水に小石を落した時の波紋のように大きく広がって行ったら、どんな清い、明るい平和な社会になることだろうか、いかなる時代、いかなる環境に生活していても彼らの心は明るいだらう。

奥深い真理探求に生きる私たちこそ、その時代の良心であり地球上に蒔かれた一粒の麦である。私たちは何のために生きているか、もちろん永遠の生命を得るためです。ニーフアイ第三書二十八章三十三節に「……永遠の生命に行く道は細く、その門は狭くしてこれを見出す者は少し……」と適切な解答を与えてくれます。私はこの教会に

導かれ「神は真に生きています」と人前で話せるようになるまで、約半年もたちました。私は次の聖句によって心の窓を開いたので「信仰とは望んでいる事柄を確信し、まだ見てない事物を確認することである」。こうして心の窓を開いた結果、愛の光が一度にさし込んできて、私の心は希望に満たされ、さらに「求めよ、さらば与えられん。尋ねよさらば見出さん。門をたゞけさらば開かれん」という聖句を心から受け取り、信仰生活はスタートしました。その後、私は夢を通して、または実際の行動に偶然プラス奇跡を半分にしたような現象が生活面に現れました。この貴重な体験を通して、再び神は生きていますと証詞いたします。

最後に、末日聖徒イエス・キリスト教会はこの末日に回復された唯一の真の教会であることを証詞します。

生は死から生ずる。  
麦が芽ぐむためには  
種子が死なねばならない。

ガンヂー

## 地方部大会のお知らせ

一九五九年秋季大会のシーズンになりました。すでに沖繩地方部では、八月の十五、十六日の両日大会を行いました。他の四地方部のスケジュールも発表されました。

◎北海道地方部大会は今年は早くも、九月の、二十六、二十七日の両日、例年の通り札幌の市民会館で行われる。

◎東中央地方部大会は十月三、四日の両日、港区芝西久保明船町にある日本消防会館大講堂（都電、都バス、地下鉄いづれも虎の門下車）で行われる。

三日のMIA大会は京浜地区の出演、横浜が一幕物の宗教劇で最大の出し物、東京中央はバンドタイム、東京西は Comedy、東京北は音楽、東京南がスピーチとステージ・ダンスのレパトリ。

四日の一般大会では地方部長と伝道部長以外に支部長たちの説教が予定されている。夜は米軍の家族合同のファイア・サイドも計画されている。

地方の上京者の宿泊所は大会場の会館の宿泊室があたり、すでに予約済である。

◎西中央地方部大会は十月十、十一日。神戸の三ノ宮にある農業会館に於て開かれる予定である。

# 支 部 紹 介

## むろらん支部

北海道には面白い地名のある事を聞いていたがなるほど函館を出て二時間程してオシヤマンベ（長万部）と云う駅

に着いた、もう間もなくムロランである。むろらんとはアイヌ語でゆるやかな下り道という意味だそうだ。別名「鉄の町」と言われるだけに二つの大きな製鉄所があり、昼夜を別たず赤い煙がもくもくと立ちのぼり町全体が何となく煤けた感じである。

駅から歩いて十五分、道は少しづつ登りになっていく様だ、目標とするところはミルクプラント。この辺りまで来ると潮の香がたゞよい海の近い事を感じさせられる静かな住宅街である。その一角、塀をめくらしした住宅がある、どう見ても教会らしくないが、その家に不似合な大きな、看板が教会である事を示している。ここが末日聖徒イエス・キリスト教会室蘭支部である。

門をくぐり先ず目に入ったのは寒にみごと

に咲いた白いつじの花であった。玄関に入るとジョンズ、パーガー両長老が、喜んで迎えてくれる。正面にガ

ラスを張った大きな箱の中にモルモン経、教義と聖約その他教科書等が展示されてある。これは前支部長ロー長老苦心の作だそうである。その横に掲示板があり支部大会の案内が書かれていた。廊下を通りつきあたりの十畳

二間これがむろらん支部の礼拝堂兼レクリエーションホールである。二年ほど前までは、純日本式で畳の上に坐って集会を開いていたそうだが、現在はそこにきちんと椅子が並べられ正面には立派過ぎるほどの説教壇がデンと構えていた。

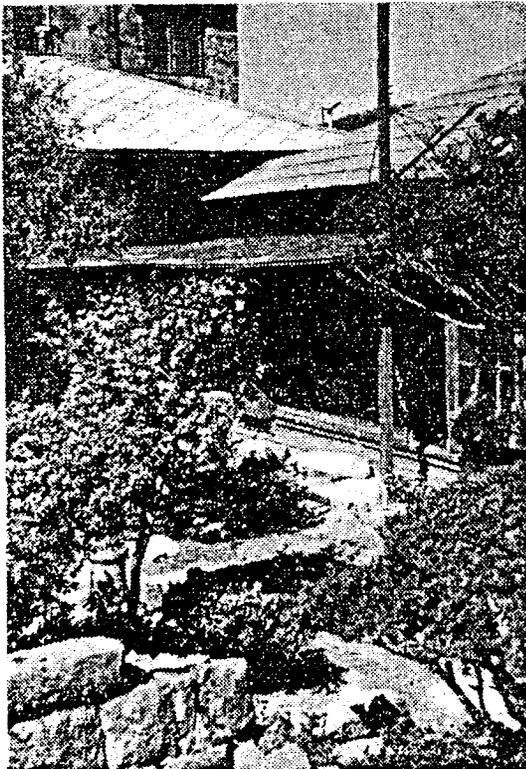
むろらんは今からちょうど九年前一九五〇年八月末に伝道が開始されたが、一九五五年五月、現在の建物を手に入れるまでの五年間は集会場に不自由し、何とかして私たちの礼拝堂を

と、会員一同心からの願

であったそうだ。

この建物が建てられてからもう四十数年経っているそうで、そろそろ建て直さなければならぬ時期らしい。現に、支部長始め会員たちは、智恵をしぼって立派な改築の計画を練り、現在本部に折衝中だそうだ。それと共に、建築資金獲得委員会が組織され目下計画中で、すでにダンス・パーティを開き、多くの収益をあげている。また毎月神権会、扶助協会、宣教師と三ヶ月交代で食事パーティを開き、少しづつではあるが建築資金を作っているとの事である。

現在会員数五十三名内男子会員二十一名、



室蘭支部会堂



室蘭支部会員

神権者、祭司四名、教師一名、執事六名。ジョンズ支部長は、一日も早く会員の中から支部長会が組織される事を望んで居られた。またむろらん支部の特徴としてあらゆる集会に於て男子会員が女子会員より多い事を指摘され、着実な歩みを続けているとの事。(旧聞になるが室蘭支部にとってはチョット

名誉になる話の一つある。

それはランドバーク部長が副伝道部長に任命された時彼の履歴がチャーチ・ニュースに掲載された。ランドバーク部長は室蘭支部長であつたのでその事も記されたわけである。所がむろらんを編集者のミスでモルモン支部と正しいスペルで書かれていたのである。むろらんとモルモン—外人にとってその音はなに程のちがいのないのであらう。編集のミスか校正のミスか、ミスもこの程度であれば御愛嬌である。

「俳句」

## 西支部句会

野口善二郎

祭笛浅草とほく懐かしき

「鱒」の唄唱いて朝のキャンプ場

キャンプファイア尽くれば溪の音増して

睡蓮やまばたきもせず午后を咲く

子の昼寝守りて母の団扇哉

小室 たき

氷挽く音涼しげにビルの前

通過駅手を振る子ありカンナ咲く

夏深くつくく故郷の水掬ふ

目覚むれば故郷の家なり蟬時雨

老の腰折れんばかりに田草取る

長々とのばし足に青田風

我手にてちぎりし桃の水々し

# モルモン経(金版)の八人の見証者

姓 名	クリスチャン・ ホイットマー	ジエコブ・ ホイットマー	ピーター・ ホイットマー 二代目	ジョン・ ホイットマー	ハイラム・ページ	ジョセフ・スミス 初代	ハイラム・スミス	サムエル・エッチ・ スミス
出生年月日	1798. 1. 18	1800. 1. 27	1809. 9. 27	1802. 8. 27	1800	1771. 12. 12	1800. 2. 9	1808. 3. 13
出生地	ペンシルバニア ヴェネツィア ハーグ	ペンシルバニア ヴェネツィア ハーグ	ニューヨーク フレイヤ ット	ペンシルバニア ヴェネツィア ハーグ	ヴァーモント	マサチューセツクス エセツクス 郡トールド	ヴァーモント タンブリ ッジ	ヴァーモント タンブリ ッジ
金版を見た年	31	29	19	26	29	57	29	21
職業	靴屋	靴屋	仕立屋 農夫	農夫	医者 農夫	農夫	農夫	農夫
個人的な資料	一八三〇年四月一日にバプテスマを受けた。教会 に対し常に忠実であった。	一八三〇年四月一日にバプテスマを受けた。一八 三八年に背教し二度と教会に戻らなかった。彼は決 して金版に対する証詞を否定しなかった。	一八二九年六月にバプテスマを受けた。最後迄教会 内で活動的であり予言者の熱烈な友人であった。	一八二九年六月にバプテスマを受けた。一八三八年 三月一日破門された。彼は決して教会に戻らな かったが決して彼の証詞を否定しなかった。	一八三〇年四月一日にバプテスマを受けた。若 し時に医学を学んだ。ホイットマーの娘と結婚 を否定しなかった。教会を去ったが決して彼の証 詞を否定しなかった。	一八三〇年四月六日にバプテスマを受けた。彼は 人の子供の父親で家族を養う為生活と戦った。生 活を通じて忠実な会員であった。	一八二九年六月にバプテスマを受けた。予言者とよ く似ていた。最も好きな人でも彼の欠点を見 すことは出来なかつた。終始教会に忠実であ った。	一八二九年五月一日にバプテスマを受けた。彼は 常に予言者に対し忠実であった。彼は教会の最初 の宣教師となった。
死亡年月日 及場所	1835. 11. 27 ミズーリ郡 クレイ	1856. 4. 21 ミズーリ郡 リッチ モンド	1836. 9. 22 ミズーリ郡 クレイ パ	1878. 7. 11 ミズーリ郡 ファース ト	1840. 9. 14 ミズーリ郡 セックス アング ス	1840. 9. 14 イリノイ ノーヴ ー	1844. 6. 27 イリノイ カーセ ー	1844. 7. 30 イリノイ ノーヴ ー

若き末日聖徒の為の

# モルモン経物語

(二二二)

エマ・マー・ピーターソン著

渡部正雄訳

救主は現われる

ニーフアイ第三書、第十一章

バウンテフルには多くの義人が住んで居りました。彼らは三日間の暗闇と破壊から救われて生き残りました。光が戻った時、彼らは神殿の建っていた処に行き、そこに生じた多くの変化を見ました。

彼らが立ってお互に語合っていると天上から声が聞えて来ました。それは大きな声でもなくまた荒々しい声でもありませんでしたが柔い声でしかもそこに居るすべての人の心を刺し通しました。彼らは恐れふるえあがりました。それは彼らの心を燃え立たせましたが彼らはその言葉を理解

する事が出来ませんでした。それは新奇な言葉のようでありました。

彼らが不思議に思っていると再び声がしましたがしかし彼らは尙もそれを理解する事が出来ませんでした。彼らは声の聞えて来る空の方に向ってじっと耳をすましました。

三度声が聞えて来ました。今度は彼らはその言葉を解する事が出来ました。それは神の声でありました。それは「我が喜ぶ愛子を見よ、われはこれによりてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聴け」と言いました。

彼らが空の方を向いてその声を聞いていた時、白い衣を着た人物が降りて来るのを見ました。彼は降りて来て神殿の周辺に集ってゐる人たちの間に立ちました。彼らは皆彼

を見つめましたが誰も敢て語ろうとしませんでした。

そこで栄光に輝く人物は彼の手をさしのべて人々に語り始めました。彼の最初の言葉は彼が誰であるかを告げました。「見よわれはイエスキリストなり、予言者らが世に来ると証をしたるその者なり。われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き盃を飲み世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示せり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於てわれは最初より凡て天父の御意に従えり」と。

人々は予言者たちがイエスは復活して後彼自身の姿を現すであろうと告げたことを憶えていました。彼らは今天父がその愛する子に就て述べた事「わが喜ぶわが愛子を見よ、われはこれによりてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聴け」との言葉を理解しました。

イエスが彼らに彼が誰であるかを告げた時、群衆は彼の前に伏して彼を礼拝しました。彼らの心の内のすべての疑いを追払って彼は彼らを呼んで言いました。

「汝ら、わが肋にその手をさし入れわが手足にある釘あとに触れてわれがイスラエルの神にして全世界の神なることまたわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知る為に起ちて我に近づけ」と。

人々はそこで彼の言う通りにしました。彼らは一人づつ来てその手を彼の肋にさしのべ聖句に「各皆目で見、手で

触れてこの御方が予言者たちによってこの世に来ると誌されたお方であることを確に知り且証することを得る迄イエスに近寄りたり」と記されてある通り彼の手及足の釘あとに触れ感じました。

すべての人が来て彼を見彼に触れて後彼らは大声で叫んで「ホザナよ。最高き神の御名に感謝す」と言いました。そこで彼らは皆彼の足許に伏して彼を礼拝しました。そこには男、女、子供二百五十名の人々が居ましたが彼らは皆復活した救主を見且触れました。

## 十二弟子は召された

ニーフアイ第三書、第十一章及第十二章

ニーフアイ第一書、第十二章八―九

モロナイ書、第二章一―三

破壊が来る前に人々の間に働いた予言者ニーフアイはイエスがニーフアイ人たちにその姿を現わした時に神殿の周辺に集ったニーフアイ人たちの間にまじって居りました。

彼は悪人に対し勇敢に救主に就て証し彼らにイエスは生きていると証詞を立てたのでした。その時天使たちが彼の仕事を助ける為に彼を訪れたのでした。

救主は天より降って来た時ニーフアイが群衆の中に居る事を知っていました。彼は群衆内よりニーフアイを呼びよせました。ニーフアイは出て来て彼の前に跪きその足に口

づけをしました。主なる神さまは彼に起てとお命じになりました。彼は起上って救主の前に立ちその命令を待ちました。

イエスは彼に「われは汝に権能を与う。われが再び天に昇りし後汝はこの権能を以てこの民にバプテスマを施せ」と言いました。

そこで彼は十一人の他の者を召し同じ権能を彼らに与え如何にしてバプテスマを施すべきかを告げて言いました。

「汝らの言葉によりてその罪を悔い改め我名によりてバプテスマを受けんと願う一切の人々に汝らは次の方法を以てバプテスマを施さざるべからず 即ち汝らは行きて水の中に立ちわが名によりて彼等にバプテスマを施すべし。其時に用うべき言葉は次の如し。先づバプテスマを受くる者の名を呼びて次に『われはイエスキリストより権能を受けたれば天父と御子と聖霊との御名によりて汝にバプテスマを施す、アーメン』と言え、それよりその者を水の中に沈め、沈め終りて再び水より上れ」と。

救主は彼らに彼らはずべてこのように



イエスの前にひざまづくニーフアイ

してバプテスマを施すべきでその事に就て議論すべきでないことを告げました。

彼はその教義の如何なる点に就ても争論すべきでないことを教えて言いました。「これまで行いしごとく争論はその後これをなすべからず。またわが教義の何れの点につきてもまたこれまで行いしごとく論争すべからず。まことにまことに汝らに告ぐ、争を好む心ある者はわれに属く者に

あらずして悪魔に属く者なり。悪魔は争を生む親にして人々の心を煽動して互に怒り争わしむる者なり。見よ人々の心を煽動して互いに怒り争わしむる如きはわが教義にあらず我が教義はかくの如き怒りと争とを止めよと云うものなり」と。

彼はそこですべてバプテスマを受けて福音に生きる者は救われるであろうと説明しました。彼はまた彼らに福音を受け入れずバプテスマを拒む者は救われまいであろうと教ええました。

信じてバプテスマを受ける者には彼は聖霊の賜物を約束しました。

而して彼は言いました「汝ら悔い改めて幼子のごとくなり、わが名によりてバプテスマを受けざるべからず。然らざれば決してこれ等の恵を受くることを得ず」と。

十二人のニーフアイ人の弟子たちを選んで如何にバプテスマを施すべきかを教えて後イエスは再び群衆に向って

「もし汝らわれが汝らの中より選び出して汝らを教え導く者とし汝らの僕となしたるこの十二人の者の言葉に聞き従うならばさいわいなり。われは水を以て汝らにバプテスマを施す権能をこの十二人の者に授けたり。汝らが水にてバプテスマを受けたる後われは火と聖霊とによるバプテスマを汝らに施す。されば汝らもしもわれを見、またわれが神なるを知りて後、われを信じてバプテスマを受くるなら

ば幸わいである」と言いました。

十二人のニーフアイ人の弟子たちは主によって聖任されました。主はその手を彼らの頭に按いて一人づつ名を呼んで言いました。

「汝らひたすらわが名によりて御父に祈るべし。かくして後汝らは汝らとその手を按く者たちに聖霊を与うる権能を受く。されどわが使徒たちはわが名によりて与うるなれば汝らもこれを同じくわが名によりて聖霊を与えよ」と

この十二人はリーハイの息子の最初のニーフアイに示現によって示されました。その時天使はニーフアイに示現を教え導くために委任された。汝は子羊の十二使徒をおぼえているか。見よかれらは将来イスラエル十二の支族を裁く者たちである故に汝の子孫から選ばれる十二人の教導者はこの十二使徒によって裁かれる。汝らはイスラエルの家に属する者たちであるからである。汝が今見るこの十二人の教導者は汝の子孫たちを裁く。見よ。この十二人は神の子羊を信ずる信仰のため、子羊の血によってその衣を清められているからいつまでも変らず義を守る者たちである」と言いました。

これらの十二人の教導者または弟子はニーフアイ人の間に召されて大きな仕事を成し遂げました。更に彼らが人々の間に行った奇蹟や働らきに就て語られるでありましよう



# ◇◇読者交歓室◇◇

## 人生の目的

如何なる人も静に省みる時、一  
体地上に生を享けて来た人の子と  
して、三十年或いは五十年の人生  
を伸なく永遠の生命なき醉生夢死  
の生活にて何人が満足するでし  
うか。

もちろん一世の英雄として歴史  
を飾ることも大いなる意義ありと  
言わなければならぬし、巨万の  
富を蓄えて榮華の極を味わうも人  
生の意義の一つであるかもしれな  
い。また愛国心の権化となつて祖  
國の為に倒れる事も尊い事では  
う。しかしただそれのみで人生の  
使命が全うされるでしょうか。も  
しそうであると考えるならば、そ  
の人は悲しむべき者と言われなけ  
ればならない。何故ならば先に述  
べた事柄は人生窮極の使命よりす  
るならば、附屬物でこそあれ本来  
の目的ではあり得ないからです。  
一人人間が地上に生を享けて来た  
過去、現在、未来に亘る大使命は  
何であろうか。それは外でもない

眞の生命を得る事です。テモテ書  
に眞の生命を得る為に未来に備え  
てよい土台を自分の為に築き上げ  
る様にと記されています。また私  
たちが読み研究している聖典の約  
束している事は救いの永遠の生命  
です。「神はその独子を賜つた程に  
この世を愛して下さつた。それは  
御子を信する者が一人も滅びない  
で永遠の命を得る為である。神  
が御子を世に遣わされたのは世を  
救く為でなく御子によつてこの世  
が救われる為である。」ヨハネ伝三  
章十六、十七節。この人生には色  
々な不安や怖れがあります。人間  
が生きて行く限り絶えず何処にで  
も付纏つて来て、しかも決して取  
り除く事の出来得ないのは死に対  
する不安であり人の意識と生命と  
に限界があるという事です。また  
「永遠」の生命は遠い過去から今  
を通じて果しない未来へと続く時  
間的に永い生命というよりも「永  
遠の存在者であり給う神」と共に  
生かされるという喜びと眞実の中  
にある生命です。しかも生命はじ

つと静かに動かないものではあり  
ません。神によつて生き／＼と活  
動しているダイナミックな力を指  
しています。イエスはある若者が  
御許に来て「よき師よ何をしたら  
永遠の生命が受けられましょ  
うか」と聞いた時、神の戒めとし  
て常に神に従う事を教えられまし  
た。すると彼は顔を曇らせて悲し  
みながら立ち去りました。イエス  
は弟子達に「富んでゐる者が神の  
國に入るよりは駱駝が針の穴を通  
る方がもつと優しい」と言いまし  
た。イエスを知りイエスに従いイ  
エスを信する事が直接にこの生命  
に続いていると思ひます。宇宙に  
於て永遠に且つ無窮に実在し得る  
ものは何であろうか、それは只神  
の愛のみであり聖書に「愛のみは  
永劫である」と記されています。若  
し神の愛の本質を持たないならば  
私たちは全く無益なものでそれ故  
に私たちの只一つの求むべきもの  
所有すべきものはこの愛です。私  
たちは愛を見ただけでなくまた愛  
に感じただけでなく或は愛に泣い  
ただけでなく事実の所有者となり  
愛の人とならなければならぬ。  
すなわち人間が地上に生れ来た窮

極の目的は各自が自己の為に善基  
でいます。イエスの救いを体験しそ  
の全人生が神を愛しまた隣人の愛  
に尽す事によつてやがて地上に於  
ける使命終了のラッパを聞く時巨  
大な戦艦が正々堂々と母国へ帰る  
如くに神の國に約束の永遠の生命  
を戴くべき勝利の凱旋をする事に  
あるのです。私たちが、辛い時苦  
しい時それをのり越えて眞の神の  
道を進む事の出来ました時にどん  
な苦しみや悲しみにも増してい  
つもそれより深い大きな感謝と喜び  
がある事を思い永遠の生命の輝き  
と喜びを自分のものとする為に日  
日努力し世の全ての人々が神の福  
音を聞き眞の道を進む事の出来ま  
す様に信仰のない多くの隣人の為  
に心よりお祈り申し上げます。  
(札幌・吉沢興子)

**安倍野支部を訪問して**

八月九日、夏休みを利用しての  
四国旅行の途上安倍野支部に立寄  
る。附近の商店街は長屋続きの大  
阪らしい風景。駒川幼稚園は淡緑  
に塗られて落着いたふんいきをだ  
していた。  
ここの支部で一番長く話しがで

きたのは林鈴子姉妹という年配の人。この姉妹の言葉を借りると阿倍野支部は、落着いていてあたたかい愛の気持ちに満ちている支部だそう。なるほど建物は間借りでも、集会の終わったあと、一方ではピアノを囲んでコーラス、他方では静かに談笑、また一方ではMIA役員が集まって相談会を開いているというのを見ると、林姉妹の言葉を実際に見ると、いう感は強く、秩序のある、まとまりのある支部だという印象を受けた。

この支部訪問中一番強く残った印象は、集会の始る前のふんいきがとてもいいということ、ピアノに恵まれているということの二つである。聖餐式は十分ほど前から全ての人が静かに着席して開始をまっている。しばらくその静寂が続くと開始五分ぐらい前に前奏が静かに会衆の心にしみこんでいく。今までにこんな落着いた聖餐式に出席したのは残念ながら始めてのように思った。ピアノも指揮も集会ごとにちがう人がやっていた。深江という兄弟の話によると、やはり心して養成に努力しているということである。しか

し、間借りをした小さな支部にしては、人材にも恵まれたのであろうが、良く配慮がゆきとゆき、それが実っているようであった。

(東京西・早川嘉春)

### よき隣人

ほんの小さな、人が面白がるような話に過ぎないけれど貴方が興味を持つかも知れないと思われましたので……

私たちの新しい教会堂の建てられる場所、オレンタンジ・リヴァー・ロードは放置されていたので雑草がはびこり、基礎工事の鉄入れをなす前に何か処置されねばならなかった。草刈機が用いられねばならなかったが、それがかけられるようになる前に、多くの岩石を手で外に運び出さねばならなかった。

末日聖徒たちの間によく見受けられるようにその問題は私たちのワード部のMIAが、すべての若い人たちを岩石除去パーテイに招待することによって解決した。仕事も楽しい時を期待して多くの群衆が集った。

若人たちが雑草の繁茂した処で

忙しく働いている時、突然、何処からともなく美しい楽の音が流れて来た。このような音を彼らはかつて聞いたことがなかった。

「苦を恐るな聖徒よ」の懐かしい聖歌隊の歌声が流れて来て美しいメロデーと言葉は夕方の空一面に響き渡った。

すべての人がその音楽が何処から流れて来るのであろうかと見渡したが誰もその出所をつきとめ得る者は居なかった。我々は皆、道に沿うて駐車している車の一つに拡声機を持っているのではなからうかと、お互にたずね合った。或者は恐らく或会員がこの場所に立っている掲示板に一つ取付けたのであろうと考えた。

もちろん、みんなが道路の向側に新しくほとんど完成した教会があるのを知っていた。けれども最初、会員の誰一人として、其処ではなからうかと、疑った者は居なかった。けれども更に、しらべた結果教会の尖塔に二つの拡声機が

あつて美しいそのメッセージを送っているのに気がついた。私たちは皆好奇心にかられて道を越えて行ったが彼らがソルト・レイク市よりモルモン・タバナクル・クワイヤのレコードの我々の歌を得て新しい教会の人々がそれを使って拡声機で鳴らしていたことを確めたのであった。自己紹介をして後私たちはその建物がオランダからのダッチ・リフォームド・チャーチに所属していることを発見した。彼らはまた私たちが道をへだてて建てつゝあることを知った。

この音楽が私共の彼らに対する感情を如何に友情的なものにしたことであらうか。また彼らの我々に対する友情も同様に暖かなものとなった。私たちはそのような友情的な隣人を持ったことを深く感謝した。隣の教会が使用している私たちの歌を聞き、彼らが私たちの音楽を高く評価していることを知ることは何たる喜び且満足されることであらうか。(インプルーヴメント・エラ誌より)

## ◆◆読者交歓室◆◆

## 編集後記

「聖徒の道」は無言の宣教師であります。一部でも二部でも三部でもこれを買って有縁の方に分け与えて下さい。それによって多忙なあなたは貴い伝道の仕事の一部に携さわっているであります。残暑はきびしくてもすでに天地は秋に入った感であります。皆様の御自愛を祈ります。(佐藤竜)

＊

最初の頁の写真は教会に關係ある建物や風物を取材にしたものを載せて居りますが、優秀なカメラマンは宣教師たちのようで、毎号彼らの作品に片寄ってしまいました。読者の中から—アメリカに居る読者もあること故に—の提供を願って居ります。

聖徒の道も片假名の名前の著者(すなわち翻譯物)が少なくなり漢字名の著者の多くなって来た事は喜ばしい事で、読者の投稿が目

だつて増えて来た事を物語って居ります。論文、研究、物語といったものでも証詞や信仰雑話に加えて掲載する事も興味深いのではないでしようか。(大塚)

＊

東中央地方部系合同集会も十六回目となり内容が非常に専門的に充実して来たので遠く名古屋支部等からも委員がわざわざ参加して非常に有益であつたと喜んで帰られた。毎月の第二日曜日の午後四時から五時半迄東京中央支部で開いていきますから出来るだけ多数の方の御参加を期待します。西宮支部では市役所の戸籍係を招待して研究会を開く熱心さ各支部に於てもこれに見習われ度い。(渡部)

＊

毎月普通九日頃に開かれる予定の編集会議がいろいろ都合で延び／＼になり、今月開かれたのは何と十日後の十九日。しかし、定日までに印刷、出版されたのは大

へんうれしい事である。編集部としての悩みの種は何と云つても原稿の校正、そこで投稿者の皆さんに特別にお願いしたいのは、漢字制限、新假名、旧假名の使いわけである。

「聖徒の道」が月を追うごとに改良されていくのは誠にうれしい限りである。なお一層の御鞭撻をお願いして止まない。(佐藤汎)



9月号表紙—天使より金版を受けるジヨセフ・スミス  
エドワード・T・グリグエヤ画

月刊「聖徒の道」第三卷第九号

一九五九年九月一日発行

実価 一ケ年 三百円

一部 三十円

編集兼  
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

# 内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	モルモンとは	完成への道	初等協会教科書	総合聖句の手引	日本系図探究要覧	聖典中の指導者	家督権の祝福	扶助協会手引
	合本		合本										
	……………		……………										
	一一〇〇円		三〇〇円				二〇〇円	一五〇円	一五〇円	一〇〇円	一五〇円	一〇〇円	五〇円

## 日曜学校用

福音と生活	古代アメリカの生活	旧約聖書物語	シオン山の救い手たち
……………	……………	……………	……………
一〇〇円	一〇〇円	一五〇円	一〇〇円

## M I A 用

役員と指導書の手引	我らは奉仕する	Mメン・グリーナーの手引	演劇指導者基礎知識と脚本集	演説が上手になる法	社交ダンス必携	新しいフォークダンス
……………	……………	……………	……………	……………	……………	……………
一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	七五円	一五〇円	一六〇円	五〇円

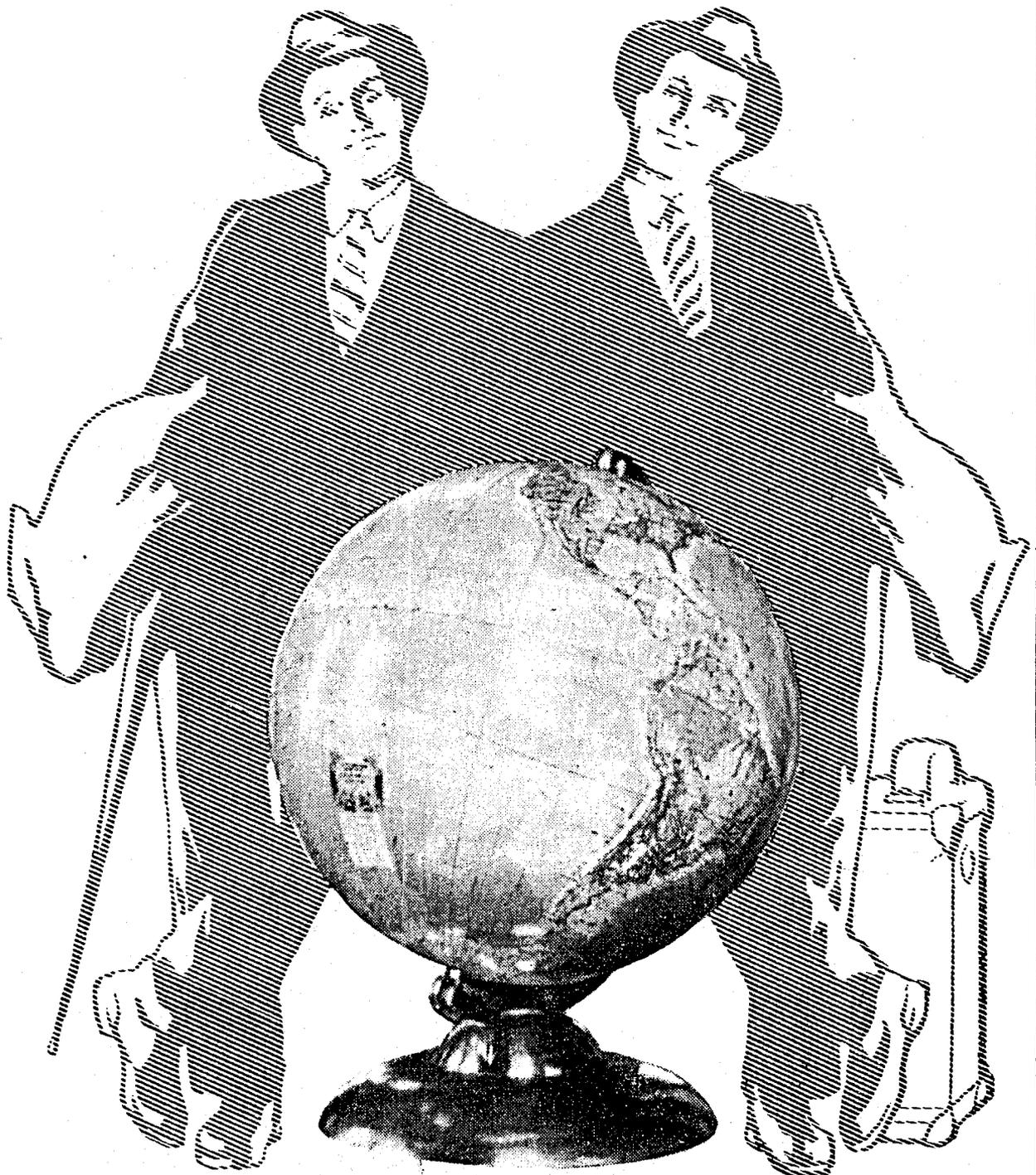
## 讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌	末日聖徒讃美歌拔萃	子等はは歌う	レクリエーション歌集
……………	……………	……………	……………
三〇〇円	三〇〇円	一〇〇円	四〇〇円

………註文は各支部長へ………

# PLAN WITH AMERICAN EXPRESS!

For your complete, satisfying travel  
throughout the world.



## AMERICAN EXPRESS INTERNATIONAL, INC. TRAVEL SERVICE

Main Office: Yusen Bldg., Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo  
Tel: 28-7415/9 C.P.O Box 115, Tokyo

Imperial Hotel Office: Imperial Hotel New Bldg. Tel: 59-9829